岡山リサーチパーク　インキュベーションセンター
2009年４月発行 通巻第24号〔年4回発行〕
Okayama Research Park Incubation Center

ORIC NEWS 翔飛（ひしょう）

入居企業紹介

詳細は７ページをご覧ください

一本号の主な内容一

巻頭言
2008年度ORIC入居企業・卒業企業の活動
研修・交流会活動
入居企業紹介
入居企業の活動・トピックス
新入居者紹介

No.24（2009. 4 ）

「新しい価値で市場を拓く」

ORIC　センター長代行　瀬田　雄一

「100年に一度」という言葉は、今年の流行語大賞にノミネートされる資格十分ですね。今や耳にタコが出来るほどの枕詞となったこの言葉で形容される経済危機の中で、各企業は、生き残りを模索しています。

しかし、いくら「100年に一度」の経済危機でも、人類が消えてしまうわけではなく、そこには人々の生活があり、経済活動があり、必ずやニーズが存在します。大きな変化の時には、既存の価値観では見えないかもしれないけれども、見方を変えれば新たなチャンスがぽっかり口を開いていることもあるでしょう。世間では、「ピンチをチャンスに」を合い言葉に、発想の転換を求めています。

もともとORICに入居する企業を始めとして、ベンチャー企業は、潜在的な、あるいはすでに顕在化したニーズに、新技術や新サービスで答えるプランを持って参入してきています。そのニーズに答えられる商品、サービスを適切に提供できているならば、必ずや展望が開けるでしょう。

本号の表紙と企業紹介で取り上げた「（有）クラフト」もそのような１社です。電子メールでは当然のように行われている一斉配信を、電話の音声で可能にした新サービスです。このサービスには潜在的なニーズがあったと見えて、同社には今様々な問い合わせが来ています。新しい価値の提供で新しい市場を拓いてゆく一例です。

大企業は、大企業であることを維持するために、大きな市場を必要とします。しかし、そのような大きな市場は、数も少なく競争も激しいものです。そのため、ベンチャー企業は、ニッチ（すき間）市場を狙え、ということが常識です。でも、そのようなニッチな市場がどこにあるのでしょうか？　一つには、ある分野に精通することで見えて来るその業界特有のニーズがあります。もう一つは、「マイクロトレンド」を注意深く狙う方法です。

マーク .J. ペンが著したこの著作（2008年４月NHK出版）によると、もはや世界を動かすメガトレンドは存在せず、人口のたった１％程度の人々だが、個性的な動きをしている人々が社会に大きな影響力を与えるようになるのだということです。このような少数の人々の独特の要求に適切に答えてゆくのも、小回りのきく中小・ベンチャー企業の得意とするところでしょう。テクノロジーの世界では、すでにベンチャー企業の持つ有力な技術を大企業が大金で買い取ってゆくオープンイノベーションの時代に突入しています。

中小・ベンチャー企業は、今こそ発想の豊かさと柔軟な行動力で、新たな価値による新たな市場を拓いて行って欲しいと思います。ORICは微力ながら、そのお手伝いをさせていただきます。

さて、昨年度のORICと入居企業、卒業企業の活動状況を次ページに示します。昨年9月来の景気の急激な低迷により、雇用面ではマイナス成長でしたが、売上高では、順調な成長を見せています。今年度はかなり厳しい面を予想しますが、引き続き成長を続けて地域経済に寄与出来るようになって頂きたいと願っています。

今度とも、皆様からこれら企業の事業活動へのご支援と、起業希望者に関する情報の提供をお願い申し上げます。

■ 2008年度　ORIC及び入居企業・卒業企業の活動

1.【入居及び卒業企業数】［４月１日現在］

新規入居は３者で、既存企業、創業企業、個人が各１者となっています。また、退所企業は５者で、いずれも、業務目標を達成したか、または期間を満了して「卒業企業」となっています。現在、25者が41室を使用しており、入居率は71%となります。

このうち、18者が、創業後５年未満の若い企業です。卒業企業数は、累計で31者になりました。入居企業、卒業企業の産業分野を図表－１に示します。IT系企業が４割を越え、昨年に引き続き大きな位置を占めています。ものづくりでは、岡山県の重点４分野に属する企業数が多いと言えます。

図表－１

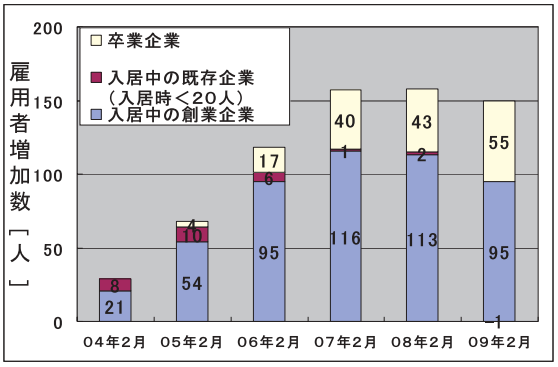
	IT関連	超精密生産技術	バイオ	医療健康福祉	環境	その他
入居企業（２５者）	１０	３（１）	４（３）	９	１	２
卒業企業（３１者）	１６	３	６	１	２	３
合計（５６者）	２６（４６%）	６（１１%）	１０（１８%）	１０（１８%）	３（５%）	５（９%）

（　）内の企業数については、超精密生産技術とバイオに重複カウントされていますので、合計欄の割合の総合計は１００%を超えます。

2.【雇用の創出】［２月末日現在］

入居時の雇用者数が20人以下の既存企業と創業企業が、ORIC入居後に創出した雇用数は、入居中の創業企業が95人、入居中の既存企業が△１人、卒業企業が55人となりました。（ここで、入居中の既存企業の数値がマイナスなのは、既存企業については、ORIC入居時の雇用数を差し引いて、純粋にORIC入居後に増加した数をカウントしているためです。）総計149人の雇用を創出していることになりますが、昨年度実績の158人を下回りました。雇用状況は、本年度に入ってから厳しさが顕在化し、卒業企業と入居企業の一部で人員削減した企業があったことで全体数が減少しました。その他の企業では雇用数はほぼ横ばいでしたが、一部の企業では、雇用数は変わらないものの、正規雇用から非正規雇用に変更したものが見られました。

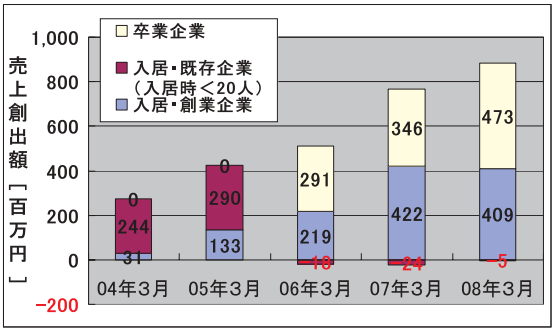
図表－２



3.【売上の創出】［３月末日現在］

入居企業と卒業企業による売上高は、昨年度実績の約7.5億円から９億円弱に成長しました。（この集計でも、既存企業については、ORIC入居時の売上からの増加額をカウントしています）売上高の入居後増加分は、過去５年間、順調に増加しています。また、入居中の既存企業のマイナス幅も減少して来ました。

図表－３



4.【メディアへの掲載】

創業企業にとってメディアへの露出は、企業名や商品の知名度向上に大きく寄与するため、発展への足がかりとなります。ORIC開所時より、入居企業は地元メディアから好意的に取り上げられており、本年度もORICの記事と合わせて72件と、昨年よりは10件多く取り上げられました。特に入居企業の新聞への掲載は７件増加しており、企業の成長に伴い、掲載価値のある商品や活動が現れた結果と考えています。

図表－４

	04年度		05年度		06年度		07年度		08年度	
	新聞	雑誌	新聞	雑誌	新聞	雑誌	新聞	雑誌	新聞	雑誌
入居企業	9	11	39	20	28	24	25	27	32	26
卒業、退去企業	0	1	7	3	5	3	0	3	1	2
ORIC関連	4	3	4	4	3	8	3	4	9	2
小計	13	15	50	27	36	35	28	34	42	30
合計	28		77		71		62		72	

（ORICスタッフルームにてコピー保管分のみ）

5.【創業準備室】

創業準備室は、創業希望者のためにパーティションで仕切ったスペースを貸し出し、IMによるビジネスモデル作成支援を始めとして、起業に関するよろず相談を行っています。これまでに10人が入居し、６人が法人を設立し、現在４人が入居中です。

■ 平成21年１月度ORIC交流会及びセミナー

●入居企業紹介

「当社事業の紹介」　（株）ビークル

日詰取締役開発部長より、同社がバイオ系ベンチャーとして開発を目指している薬物を標的臓器に選択的に送達する技術（ドラッグデリバリーシステム（薬物伝送）：DDS技術）の可能性と開発段階について説明がありました。細胞機能の根幹であるタンパク質の産生を抑制することで、多種の疾患に効果が期待されるsiRNA医薬品が開発されているが、開発されたsiRNA医薬品を標的臓器に選択的に送達することが必要である。現在、このDDS技術が確立されておらず、世界中で開発競争が行われている。同社が開発を目指すDDS技術は動物実験で高い効果が確認され、国内大手製薬会社とは共同研究契約を締結し、米国の大手製薬会社とは技術評価中の状態にある。現在の技術を医薬品レベルにするには、改良とその評価、毒性試験や体内動態のデータが必要であり、２年以内の医薬品レベルまでの完成を目指している。そのためには１億円程の資金が不足しているが、医薬品レベルのDDS技術が完成すれば10億円を超える技術売却も可能であると考えている。

●ゲスト機関紹介

「ペットの糖尿病治療用新規デバイスの事業化」　（株）NeoCel

昨年秋に開設された岡山大インキュベータとの交流の一環として、岡山大インキュベータの入居企業である㈱NeoCelの代表取締役安藤氏に標題の講演を依頼しました。

同社は岡山大学発ベンチャーとして設立され、最終目標はヒト糖尿病治療用デバイスの開発ですが、現在開発中のペットの糖尿病治療用デバイスとして、世界初の体内型人工膵臓技術について説明がありました。

糖尿病ペットの治療法は、ヒトと同じインシュリン注射であり、飼い主の作業及び費用負担が大きく、安価で有効な治療法が求められている。同社ではラット等から効率良く膵島（膵臓内のインシュリンを分泌する部分）を分離する技術を確立し、新規開発したラット膵島組織細胞を注入するバッグに封入したところ、ラット膵島組織がインシュリンを分泌し続けることを確認した。開発したバッグの素材は生体適合性が良く、生体内で安定しているので皮下に移植することが可能である。以上の技術により、糖尿病ペットの皮下に移植したデバイスに封入したラット膵島組織がインシュリンを分泌することで血糖値を自動制御する糖尿病治療用デバイスが開発可能になった。

●ORICセミナー

「松下幸之助の菜根譚（さいこんたん）」　～逆境や不遇、不況を克服する考え方と心の経営術～

勝央町出身で実践派経営コンサルタントとして活躍されている皆木和義氏が自らの上場会社経営での経験、作家・歴史研究家として心掛けている教訓などをもとに標題の講演がありました。今年のキーワードは“元気”、そして菜根譚は「本来の心を取り戻して元気になる」が要旨であり、松下幸之助氏も「日本人一人一人が元気になる」ことの重要性を常に唱えていたことを思い出して欲しい、と今年にかける思いを参加者に伝えました。そのうえで、経営者として社員一人一人の良さを見つけることで全員の能力を最大限引出し、衆知を集めた全員経営を常に心掛けてきたこと。それを実践するには、人間として振れない軸を自分の中に形成しなければならない。振れない軸を形成するため、菜根譚、孫子の兵法、論語の要諦を各25の漢字で表現し、必要に応じて漢字から要諦を再考する自らの実践方法の披露がありました。古典に学ぶ皆木氏の姿勢に共感し、講演後の会話も盛り上がっていました。

■ 平成21年２月度ORIC交流会及びセミナー

●入居企業紹介

「試薬への事業展開」　　ノマディックバイオサイエンス（株）

佐藤代表取締役より、同社が手掛ける新規プロテインＡを医薬品の製造過程で使うことを前提に材料メーカーと共同研究してきたが、米国発の金融危機で研究費を出す余裕が材料メーカーになくなった状況を受け、ハードルの低い試薬として販売することについての説明がありました。抗体医薬品の製造において精製用分離体として使われるプロテインＡですが、同社の新規プロテインＡは中性（他社は酸性）で作用するため凝集体が発生しないことで、抗体医薬品の生産効率が高く競争力があること、試薬の市場では製薬会社の協力は不要で単独で事業展開できることも参入を決めた理由とのことでした。金融危機の影響で売上の激減や取引先の方針変更で事業戦略の見直しを迫られている企業は多いと思いますが、金融危機による激変を前向きにとらえ、ピンチを新事業展開のチャンスに変えた佐藤氏の柔軟な発想は参加者に大きな刺激を与えました。

●ゲスト機関紹介

「岡山県中小企業支援制度について」（財）岡山県産業振興財団　中小企業支援センター

同センターの岩崎主事より岡山県が平成21年度に中小企業支援制度として予定している「きらめき岡山創成ファンド支援事業」と「研究開発資金チャレンジ事業」について説明がありました。応募にあたって注意してもらいたい点として、助成事業の内容、助成率、助成限度額と補助対象経費で誤解しやすい経費区分などの説明がありました。次に採択されるための７つのポイントと提出にあたっての注意点についても説明がありました。金融危機で売上の減少、民間からの資金提供の減少が顕著になる中で助成金への期待は大きく、競合も激化が予想されることから多くの参加者は熱心に聞き入っていました。

●ORICセミナー

「ネットショップ奮闘記」
～売上１万円から２億円までの道のり～　(株)京乃豆蔵

講師の井上敬介氏は丹波黒豆の加工販売を手掛ける家業を継いだ３代目で、家業を継ぐと同時に黒豆のネットショップを立上げ、その販売実績が評価されているネット通販の先駆者です。参入が多く即価格競争になるのがネット通販で、年々厳しくなっており３年以上開いているショップの半数以上が売上前年割れと現状説明がありました。はじめに物ありきの発想で始めると失敗すること、客単価のアップとリピート率50%以上を目標に当たり前のことを当たり前にやり続けること、低コストの販売方法と思われているが、「効率を追うとお客様への愛を失う」ことになるのでデジタルのネットではあるがアナログな手法を取り入れること、などのポイントの説明がありました。実在する身近な人をターゲットにその人に語り掛けるようにHP、メール、DMなどを作成するマーケット手法を井上氏は推薦するとともに、モチベーションが落ちないために常に利益を出すことの重要性を指摘されました。ネット通販を手掛ける人の参加も多く具体的なアドバイスを求める質問が寄せられました。

■ 平成21年３月度ORIC交流会及びセミナー

●入居企業紹介
「ISO-20000（ITサービスマネジメント国際規格）の取得に向けて」（株）アーツ情報システム

山内代表取締役より、ITサービスの品質マネジメントに関するISO－20000の取得に向けた取組みについて説明がありました。同社は平成20年１月に情報セキュリティに関するマネジメントシステムであるISO－27001を取得済みですが、それに続けて今年６月にはISO－20000(*)取得を目指しています。取得の効果は、①体外的な信用力が増すことで、大企業とも契約し易くなること、②取得に向けたルール作り、文書化などで社員のスキルが向上し社員教育になること、③取得が条件になっている入札に参加できること、などです。目標通り取得できれば、中国地方では初めてのISO－20000取得となるとのことです。ベンチャー企業が社会的信用を獲得する方法のひとつとして参考にしたい試みと言えます。

（*）ISO－20000：国際標準化機構（ISO）が定めるITサービスの品質マネジメントに関する国際規格

●ゲスト機関紹介
「岡山県立大学の産学官連携の取り組みの紹介」　岡山県立大学　地域共同研究機構

機構長の奥野教授より、同大学が産学官連携に取り組む基本となっている「実学を創造し、地域に貢献する」とした同大学の理念の説明がありました。その後、同大学の具体的な産学官連携の例と、その窓口となり学外のニーズと学内のシーズを取り持つ組織である地域共同研究機構について、利用方法などの説明がありました。同大学が力を入れるユニークな産学官連携としてはアクティブ・ラボ（出前研究所）、100社訪問などの活動があり、共同研究、受託研究、そして領域研究プロジェクトと言った取組みとして地域への貢献を目指しているとのことでした。また、毎年OPUフォーラムを開催し、産学官連携の協働活動を通じて社会貢献に力を入れる同大学の姿勢を広く地域社会の方々に知っていただくため、研究の成果・構想などを展示紹介しているそうです。

●ORICセミナー
「商品価値を高めるデザイン」　岡山県立大学　地域共同研究機構

岡山県立大学の奥野デザイン学部教授に、民間企業で商品デザイン開発を実践してきた経験を踏まえ、デザインの重要性についてお話いただきました。日本人で最初にデザインの重要性に気付いた経営者は松下幸之助氏であること、商品のライフサイクルに応じ求められるデザインが変わることなどの説明の上で、世阿弥の芸術論から「不意打ちの意外性」で生まれる（商品）価値があり、デザインにとってその「差」は感動のトリガーであるとの説明がありました。デザインを理解する上で奥野教授が「引出し」と表現する造形の新規性27項目と「アフォーダンス（連想させる・分かる伝わる）」についてスライドで例を見せながら説明がありました。講演後アンケートに多数の声が寄せられ、参加者に強い印象を与えたセミナーでした。

■ 第18回IT研究会 「FPGAを用いた画像処理技術」「多目的データベースMULPOS」

平成21年３月16日（月）に、岡山県立大学情報工学部の佐藤洋一郎准教授と㈱パティーラボの代表取締役三宅雅氏より、標記タイトルでお話を伺いました。佐藤准教授からは、画像処理の分類や変換の種類や研究テーマである動画像の幾何変換の手法「２次射影変換の高速化」について説明いただきました。パノラマ動画像生成に要求されるリアルタイム性やコストダウンの実現に、FPGA（Field Programmable Gate Array）が有効で既に試作システムも完成されており、今後さらなるレベルアップを図っていく計画だそうです。

㈱パティーラボでは「環境の時代のプッシュ型デイリーポータルGEN」を運営しています。三宅社長からは、そのシステムのコアになっている「多目的データベースMULPOS」の開発経緯から、従来型データベースとの相違、コストダウン出来る理由について説明いただきました。

入居企業紹介

有限会社クラフト

代表者　代表取締役　田口　和生
連絡先　〒701-1221　岡山市北区芳賀5303　ORIC 215号室
ＴＥＬ　086-239-6031　ＦＡＸ　086-239-6032
ＵＲＬ　http://www.craft-inc.net/
E-mail　craft-webmaster@craft-inc.net

■事業内容

・電話による一斉連絡サービス「トークメール」のご提供
・VOIPソフトウエア開発
・ソフトウエアコンサルティング

■事業の背景

自身が加入した消防団で、団長は団員に要件を伝える時に電話を利用していたが、長時間を要するので負担が大きいと嘆いていました。以前はメールで連絡していたが、メールでは翌日になって受け取る団員も発生し、確実性に欠けること、入力の負担も大きいことからメールと電話の欠点をカバーする“一度電話に話すだけで最大100人に一斉連絡できる！一斉連絡サービス「トークメール」”を考案しました。

■サービスの内容

「話すだけで、一斉連絡がしたい。」
「携帯メールを入力する時間がもったいない。」
そんなお客様の思いを形にした商品です。
お客様の利便性を最大限に高めるため、７つの特徴を実現しています。

■７つの特徴

1. 話すだけで一斉連絡
2. 文字入力は不要
3. 携帯電話に一斉にダイヤル
4. 国内携帯電話４社に対応
5. 携帯メールよりも迅速に確実に情報を伝達
6. ダイヤル回数・ダイヤル間隔を１秒間隔で設定可能
7. 簡単な三択形式のアンケートも可能

■今後の展開

ベンチャー企業ですので、ヒト・モノ・カネ、全て不足しています。しかし、起業前からの仕事仲間がいます。利用者は代理店を使い開拓できそうです。幸い“松江オープンソースビジネスプランコンテスト2009”でビジネス活用部門最優秀賞を受賞できたこともあり、資金調達も金融機関の協力を得られそうです。今後も周囲との連携、支援、協業などの創意と工夫で乗り切りたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

入居企業の活動・トピックス

■ ベンチャーマーケット岡山

3月16日に「平成20年度第3回ベンチャーマーケット岡山」が開催され、ORICからは㈱タッグス、㈱ビークルの2社が参加しました。ベンチャーマーケット岡山はベンチャーキャピタル・金融機関に創業期の企業がビジネスモデルを説明し、事業に必要な資金調達の機会を得る場です。金融危機の中、環境は厳しいですが、それを打破する熱い思いのプレゼンテーションが展開されました。

■ ㈱光フィジクス研究所「新連携計画」に認定される

㈱光フィジクス研究所は「フェムト秒超短パルス（30フェムト秒以下）レーザー光源の事業化」で平成21年2月に「新連携計画」の認定を受けました。コア企業は中原鉄工㈱で、㈱光フィジクス研究所は装置の基本設計、装置の調整・検査を担当します。ORIC入居企業は研究開発型が多く、製造・販売面での支援が得られる「新連携」の認定は企業成長の加速への強力な援護となります。入居企業の「新連携」の認定はアロイ工業㈱、㈱日本ステントテクノロジー、㈱アスコルバイオ研究所についで4社目になります。ORICは今後も「新連携」の組成を強力に推進します。

新入居者紹介

2月20日に第24回入居審査会が開催され、下記1社が新たに入居しました。

入居内定企業名 代表者	事業概要	所在地	分野
原田服飾研究所 原田　浩介	・1940から1950年代の米国製ジーンズの再現を試みる	岡山市	機械

入居者募集中!!

センターでは随時入居のご相談に応じています。お気軽にお問合せください。

■ 施設使用料・空き室状況

（2009年4月現在）

施設区分	面積	使用料の月額	部屋数	空き室数
研究室小	約25㎡	45,000円	22	9
研究室大	約50㎡	88,000円	30	6
試作開発室	約100㎡	175,000円	6	2
創業準備室	5㎡／ブース	5,000円	6ブース	2ブース

研究室大

研究室小

創業5年未満の会社は、入居後3年間は使用料を1/2に減免する制度があります。

■ 次回募集

原則として3ヶ月ごとに入居審査会を開催しています。
次回は5月末までに事業計画書を提出された方を対象に、6月中に開催の予定です。
（※創業準備室の募集は随時受付けています。）
詳しくはホームページをご覧ください。http://www.oric.ne.jp

ORIC　NEWS　飛翔　No.24（2009/4）
編　集/岡山リサーチパークインキュベーションセンター
発行人/瀬田　雄一
〒701-1221　岡山県岡山市北区芳賀5303
ＴＥＬ：086-286-9116　E-Mail：info@oric.ne.jp
ＦＡＸ：086-286-9117　ＵＲＬ：http://www.oric.ne.jp